



日本共産党・前都議会議員 東京民報おりこみ版

# そねはじめレポート

2012年3月7日発行

第 35 号

そねはじめ事務所

114-0032

北区中十条2-11-6

Tel:3907-1135

Fax:3906-3225

北区の7・8万人

高齢者調査

## 4人に1人がひとり住いで、その半数はアパート暮らし

北区が昨年から取り組んできた7万8千人の全高齢者実態調査の結果が最終的にまとめられ、3月に発表されました。

### 《持ち家は半数、公営住宅が二割弱》

北区の高齢者は、持ち家が51%で都内平均より低く、公営住宅が2割近くを占めています。とりわけ、4人に1人をしめるひとり暮らしの方は、持ち家が3割程度で、半数以上が公共か民間のアパートに暮らしています。

共産党は、木造密集地域の多い北区で民間アパートに住む多くの高齢者を地震から守るため、耐震補強助成の適用を賃貸に広げたり、老朽アパート居住者への都営住宅の緊急整備などを提案しています。

### 《心配は健康、介護、災害、お金》

「生活上の不安」で1番が自分や家族の健康、2番が介護や寝たきりの不安、3番が災害でした。「経済的ゆとりがない」との回答も56%で、半数を超えました。

介護認定を受けていない元気な高齢者が8割ですが、健康やくらしへの不安は強いと言えます。

要望は、相談窓口や介護家族の支援、特養ホーム整備



### 《福祉情報は北区ニュースが頼り》

高齢者の福祉など情報の入手ルートは北区ニュースが圧倒的で、「高齢者安心センター」やケアマネージャーからは1割程度です。「相談窓口」や「家族への支援」の要望が強く、きめこまかな区の情報発信や、訪問による見守りと対話が今後の大きな課題となることは明らかです。

共産党の宇都宮章区議が求めた、自治会の活発な北区の良さを生かした、見まもり活動にとりくむ自治会への補助が実現する見通しです。



3・11さよなら原発 in 飛鳥山のご案内

# さよなら原発 in 飛鳥山

2012 3月11日 (日曜日) 午後2時開会

(飛鳥山公園集会后、王子・三角公園からパレードを行います)

## 被災者に つながり 連帯

3月11日午後2時46分

参加者全員で黙祷(もくとう)をささげます

高齢化が5割を超える桐ヶ丘のバザーの餅つき(右上)とデイホームさくら(下)に参加するそねはじめ前都議

## そねはじめ交友録<その二十九> 私学大会で私のあいさつに涙し、 交流が始まった父母会のTさん

都議一期目の終わりごろ、私学第5支部大会（私立高校とその父母が毎年都の助成拡充めざし都内12支部で開く決起大会）で私は異例の挨拶をしました。「今までわが家は公立のみだったが初めて下の娘が私立高校に入学した。入学早々『校舎が古い・校庭が狭い・制服がダサイ』と言い出し翌日休むという。やむなく私が『熱がある』と学校に電話した。週明けはクラス席や係を決めるのでと説得し渋々出かけた娘が興奮して帰ってきた。行くなり担任やクラスの子が『曾根さん大丈夫?』と声をかけてきたと言う。『こんなことは中学で一度もなかった』と繰り返しつつやき、それから休まず通っている。上の娘は都立高校の自由な校風に順応したが、下の子は私学の、親が逆立ちしても出来ない“他人からの温かい励まし”で救われた。この私学の面倒見のよい教育を守るために、私も全身全霊で恩返しをしたい」と話すと、かつてない拍手がわきました。後で有名私学の父母会役員Tさんからメールが届き「あのあいさつで、壇上の各校長や父母会役員が何人も目頭をぬぐっていました。みな同じ経験があるんですよ。」と書いてくれました。それから何年か、共産党には批判的なTさんでしたが、私学の発展という共通の理想で語り合うことができました。

幼かった頃の私の二人娘。成長につれ性格が大きく違ってしまふのには驚くばかり。



## 北区が都と連携でようやくスタートする給食食材の放射線測定 測定器7台・1校で年に3回のみ測定で十分か？

都や北区が取り組もうとしなかった学校給食食材の放射線測定がようやく来年度からスタートすることになり、都の教育庁からそのスキームが発表されました。

わずか7台の測定器で都内の公立小中学校、都立高校と障害児学校の給食全てを測定するため、1校当たり年に3回しか

測定できません。

しかも保育園や幼稚園の給食は対象外ですから、都の制度だけで済まそうという北区のやり方では乳幼児の父母の願いにはこたえられません。やはり区独自の測定は避けて通れません。[下の図は、都が発表した公立学校における給食食材検査体制の概要フレーム](#)

